



会の目的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

人材育成こそ企業経営の要諦

—「勇気ある経営大賞」にみる優秀企業の特徴—

東京商工会議所 理事 関口史彦



経済指標では、回復傾向がみられると言われるものの、日本経済が昨秋からの経済危機を完全に脱したとは到底言えません。東京商工会議所の会員中小企業を対象とする各種調査においても、経営者の景況感は、一部に回復傾向が認められるものの、全体としては依然厳しい水準にあります。

このような中、先日、東商が主催する顕彰事業「勇気ある経営大賞」の受賞企業が決定しました。<http://www.tokyo-cci.or.jp/chusho/keieitaisyo/index.html> 第7回を迎えた今回も、経済危機下にありながら、創意工夫と英知の結集により困難を乗り越えようとする、わが国中小企業の底力をみるようで、主催者の一員として大いに力を得た思いがしました。

受賞企業には、いくつかの共通点がみられます。
①固有の技術・技能に磨きをかけつつ、時代の変化や社会からの要請を巧みに読み取り、柔軟に自らを変化させている製造業が多い、②産学や大企業等との連携に積極的に取り組んでいるほか、臆することなく海外市場に目を向けている。そして、なにより、③現場で働く従業員に対しその育成や働きやすさの整備に熱心、ということです。

例えば、優秀賞を受賞した株式会社ヒキフネ（所在地：葛飾区、従業員数：80名）。住宅地に立地する同社は、地域との共存に腐心している総合めっき業で、納期の短縮化が求められる現在、貴重な存在となっています。従業員の平均年齢が34歳と若いにもかかわらず、技能・ノウハウ等が確実に継承されており、最新技術との融合により、微細な光ファイ

バーへの金めっき加工にわが国で初めて成功しました。その背景には、従業員毎に作成される教育プログラムや、目標設定を通じての細やかな教育訓練があります。入社2年目には業種組合が有する高等職業訓練校へ1年間派遣する制度や、めっき技能士の資格取得を奨励することで、高度熟練技能士、1・2級技能士を多数輩出しています。

また、同じく優秀賞を受賞した株式会社井口機工製作所（所在地：練馬区、従業員数：45名）。同社は、ボールベアリングを用いた搬送用装置や、国内シェア約5割を占める立体駐車場用のターンテーブル等を主力とする製造業です。同社の特徴は、外国人留学生をはじめとする多様な人材の活用にあります。個人の価値観やニーズの多様化への対応が経営課題となる中、幅広い経験、専門性、知識、スキル、人的ネットワークを有する人材が必要とされています。同社は、社員旅行や家族会などの地道なコミュニケーションの積み重ねにより組織力を高めた結果、米デュポン社との共同開発や海外への販路拡大につなげています。

このように、優秀な中小企業ほど人材育成に力を入れており、人が財産という意識が徹底しているということです。教育界や行政の皆様には、ぜひ、このことに理解を深めていただきたいと思います。東京商工会議所といたしましても、今後とも教育界・産業界相互の理解促進・連携強化の一翼を担えるよう、努めてまいります。

〈講演〉

リーダーシップの入り口

講師：株式会社ニチレイ 代表取締役会長 浦野 光 人 氏

開催日：平成21年6月9日（火）15時～

新宿区立産業会館（BIZ新宿）・多目的ホール



I リーダーシップの入り口《要旨》

「どのような組織でもリーダーシップというのはどうしても必要なものです。今日は、企業の中から見たリーダーシップというものの中で、どのようなリーダーシップにも当てはまると強く思っている部分について、ご一緒に共有できればと思っております。」と述べられ、リーダーシップの考え方について身近な例を基に講演を進められました。

・golfer、ピアニストで著名なプロフェッショナルの方々の練習量の割合(例として10時間)と我々、一般の人の仕事以外の学習あるいは考える時間を比較すると、考える時間はプロの方々の練習に匹敵するものと思われる。このプロの方々の練習量に比すべきは“考える時間”。真剣に考えるということはやはり、リーダーシップにとって一つのベースになる。

・多くの人たちは自分の仕事の範囲の内外のことで思考停止状態に陥っているのではないかと。これは大変危ういことだと思っている。

例えば、食を巡る安全、安心の問題はメディアの論調に乗りやすい。多くの人が今の日本の食料ということについて自分自身どれだけ考え、行動しているのだろうかという疑問がある。

・食の問題を例にしてみると、日本は世界一食料を輸入する国であるが、廃棄あるいは捨てられる食料は年間5兆8千億円(試算)になる。世界で8億人の飢えた人たちがいる中で、この食料問題を見ただけでもガラッと食に関する考え方を変えなければならぬのではないだろうか。

・日本の食料自給率(約4割)がこのまま続くと日本はどうなるのだろうかの問題等を含め、日本の食を考えるうえでは今の日本の農業の状態を共有理解することで、これを前提に『私はこう考える』ということを発表してほしい。

・農産物の残留農薬が検出されてマーケットに出荷できない農産物は、0.2%である。中国、米国から輸入される農産物の検出数値(中:0.4%、米:0.6%)を示し、これらを危険と見るか安全と見るか、どこに差があるのか。数字は恐ろしいし、報道されていないことも恐ろしいと思うのである。一時、こんにゃくゼリーによる死亡事故が話題となったが、

このことを含め、データに基づいて自分自身で考えることが必要であり、リーダーたる人々にはそのことが求められている。

・地球環境の問題を考える場合、必要なことは一つに科学的な知見であり、環境倫理の三原則というものを我々がきちんと納得することである。三原則が納得できた人とできない人では、地球環境問題に対する考え方が全く違って来る。

普通に生活する多くの方々には、この問題を真剣に考えているでしょうか。考えないことの恐ろしさがここにもあると、思うのです。

・幾つかの“全く考えていないね”の具体例を基に、リーダーシップの第一歩は全てのリーダーが毎日きちんと物事を考えていくことであり、このことがリーダーシップの入り口であるといえる。

II リーダーシップの本論について《講話抜粋》

(浦野講師は企業という立場からリーダーシップについて、企業の役割に触れながらいくつかの具体例をとりあげて話されました。)

〈途中略〉「今、企業がなかったら皆さん方の生活は一日たりとも立ち行かないわけです。これはやはり企業がお役に立てているはずなのですね。であれば、企業が役に立つ原点は何なのだろうか?」

「企業が皆様方の暮らしをしっかりと見つめて、そしてその暮らしの中で出てくる未解決の課題、これを企業が商品、あるいはサービスという形で、しっかり解決案を提案していこう。これが企業の本質だと私は思うのです。これをきちんと企業が役割を果たしている限りは、社会に有用な組織であるというように思うわけです。〈中略〉」

(さらに、企業の社会的意義についてのお考えを述べられました。)

「①皆様方の暮らしを見つめて、課題を解決できるような商品、サービスを生み出すこと。②それを生み出すために、雇用というものを創出します。③そして、企業は税金を納めることができます。」

このように、企業には三つの基本的な社会的意義がある。このような企業の中で、今後しっかりと暮らしを見つめて、未解決の課題を解決していくためには、先ほど言った、やはり考えることが欠かせません。

このことが、リーダーシップということにつながってくると、考えます。(中略)」

(このことから、例を挙げながらリーダーの役割について講演を続けられました。)

「リーダーの役割をまとめていうと、リーダーというのは、組織として仕事を成し遂げること、これが包括的な定義になるでしょうか。」

「先ほど話しました五つのリーダーの役割をこなしていく上で、自分の経験からして“リーダーの役割を果たすうえでの必要な能力”は何かというと、

① 高い志と倫理性だと思います。

・高い志とは、今やっている仕事の延長線上に、何を見ているかということ。

・どこまでいっても完成しない仕事というものを見つけることになる

・夢が大きければ大きいほど、いろいろな障害は簡単に乗り越えられる。

・そして同時に、高い倫理性ですね。倫理をきちんと身につけていること。

② やはりロジカルにものを考える、ロジカル思考であります。

・世の中の課題を解決していくわけですから、ロジカルにものを考えなかったら、やはり解決できないわけですね。

・普通の企業にとって、学校で学んできたことが役立つかどうかということ、全てのことが私は役立つと思います。私は、小、中、高、大学、大学院を含めて何が役立つかということ、「考え方」なのです。

・企業にとって、アカデミック・スキルはすべて必要なのです。どのような課題を解決する場合も、このすべてを総動員しないと仕事はできないというように私は信じております。

・専攻等に係わらず、しっかり学校で学んできたその方法論を応用すれば、どのような仕事でも大抵は解決してしまう。



ご講演中の浦野講師

・したがって、ロジカルにものを考えるということ、学校の段階で十分訓練してきてほしいと思うのです。企業の中で特に申し上げたいことは、“物事を見る目”です。ズームイン、ズームアウトといったこと。これも非常に必要なことであります。

・考えに考えた結果、ふに落ちるという経験を持つことはロジカル思考を支える非常に大事なことだと思っております。

③ それに「好奇心」です。さまざまに好奇心を持ってほしい。

・さまざまなことにさまざまな興味を抱く社員がいる会社、これが強い会社なのです。この好奇心という部分で何が大事かということ、自分が興味を見つけた分野について、やはり常識を疑って話をするのです。そして仲間と議論をして、いろいろなシミュレーションをしていく。このシミュレーションをしていくということが、好奇心を鍛える上では一番大事なことなのです。

④ 最後に洞察力というものがありますね。

・洞察力は非常に難しいですね。いろいろ総合的に考えて判断する。そのためには、高い志と倫理性、ロジカル思考、好奇心、このようなものがなかったら、洞察力も養えないということだと思えます。

(中略)」

「さて最後に、今度は、そのようなことが全部できるリーダーというのはなかなかいないのです。もちろん個々の人間は不完全だから、今私が申し上げたようなことは私自身もできていません。

どのリーダーにもできることがあるのです。それはたった一つだけです。明るく振舞うのです。どのような逆境にあっても明るく振舞うことです。

「自身の性格が『いやあ、わたしはどちらかという根暗で、そんな明るくなんてできないんですよ』という方は、リーダーに不適です。ほかのことが全部できているのに、その部分だけ無くてリーダーになれなかったら、世の中はもったいないですね。」

「自分にうそを言ってください。自分にうそを言うてもいいから、明るくふるまうこと。これがリーダーにとって一番大事な条件であります。

・私も実はどちらかという、あまり明るくふるまえないのですけれども明るくふるまうことによって、全体組織が活性化してくるのです。特に今のような大変な時代、これはリーダー自らが明るくふるまうことによって開けていくのではないかと思います。」

「さまざまなリーダーの役割がありますが、本日の話は私の体験から出た話ということで、軽く受け止めていただければと思っております。

どうもご清聴ありがとうございました。」

総合高校における福祉教育の実践

東京都立つばさ総合高等学校

主任教諭 田村祥子



1. はじめに

本校は今年度で開校8年目となる、東京都で2番目に開校した全日制総合学科高校で、「スポーツ・福祉」をはじめ5つの系列を持ち、特色ある教育活動を行っています。さらに、国際標準化機構が定めた、環境マネジメントシステムに関する規格「ISO14001」の認証を平成16年に都立高校で初めて取得し、エコスクールを念頭に様々な環境活動を学校全体で行っています。

2. 本校の教科「福祉」の位置づけ

本校の教科「福祉」は、「スポーツ・福祉系列」に属し、1学年自由選択科目「社会福祉基礎X」、2学年自由選択科目「基礎介護X」、3学年自由選択科目「基礎介護Y」「社会福祉演習」「手話実習（学校設定科目）」および、2・3学年共通自由選択科目「社会福祉基礎Y」「点字実習（学校設定科目）」の科目を、様々な専門性を持った市民講師の先生方と福祉科教諭とのチームティーチングの形態の授業も含め実施しています。また、教科「家庭」における保育系科目や食物系科目ともタイアップしながら、将来の進路を社会福祉や保育・児童教育、看護師や理学・作業療法士、栄養士など、様々な希望を持っている生徒のニーズに応えられるよう、工夫した授業を展開しています。

3. 家庭科・福祉科合宿の実施

教科「家庭」とのタイアップで特に力を入れている行事に、夏休みの2泊3日間を活用して福井県にある社会福祉法人「光道園」（盲重複障がい者の施設）で毎年実施させて頂いている「家庭科・福祉科合宿」があります。教科「家庭」「福祉」の科目を履修している2・3年生の希望者を募り、10数名が参加しています。

食事や入浴などの日常生活介助について学ぶだけでなく、「化粧箱の箱折り」や「ハンガーの組み立て」などの作業活動を通じ、生徒達は日常的な生活の中で何気なく目にしていく「もの」が施設の中でも作られ、商店に置かれており、利用者の方々が作業を

通じ社会の一員として繋がっていることを実感していきます。盲ろうの利用者さんとの「折紙フォトフレーム製作」では、折り方を伝える方法に悩み、触手話・手書き文字・指文字など、ありとあらゆるコミュニケーション方法を駆使して伝え合います。

見えなくて聞こえない障がい・見えなくて知的障がいなど、様々な障がい重複している利用者さんとの交流は、授業や福祉部の活動で学んでいる手話や点字の技術以前に、通じ合いたいと思う気持ちの大切さ、伝わることのうれしさなど、コミュニケーションの根幹に触れる部分も多く、職員の方々の暖かいご指導を頂きながら、施設介護の現場に触れ、生徒達は大きく成長していきます。



箱折りの点検作業をする生徒

4. 今後に向けて

短期市民講師の先生方や地域のバス・電車などの交通機関のご協力の下に実施している「ガイドヘルパーの養成研修」の充実や、「手話実習」「点字実習」、「東京都千葉福祉園」（知的障がい者の施設）のご協力の下に福祉部の夏合宿を毎年実施しています。

また、地域でのボランティア活動やワークショップ・手話コーラスステージ、本校体育祭や文化祭・特別支援学校の交流活動など、生徒達の地道な活動を大切に、地域に愛される本校福祉科としての歩みを、これからも積極的に進めて行きたいと思えます。

工業科の改革と各科に特化したクラブ活動

昭和第一学園高等学校

電子情報科主事 相子 鈴雄



1. はじめに

本校は、多摩地区の核である立川市に位置し、西武拝島線東大和市駅と JR 線の多摩最大のターミナル駅である立川駅との中間に位置しています。最近では多摩都市モノレールを利用して通学する生徒も増え、近隣の市町村だけでなく近県からも多くの生徒が通学しています。

およそ一万坪の校地には、平成 14 年 3 月には新校舎が完成し、平成 20 年 9 月にはグラウンドを人工芝化し、近隣への砂塵の問題も解消しました。人工芝のグラウンドを始め運動施設も充実し、体育の授業、放課後のクラブ活動でも生徒がのびのびと活動しています。

2. くくり一括募集から工学科創設へ

本校には普通科、機械科、電子情報科、建築科の 4 科があります。その中でも工業 3 科は他の私学同様、募集状況は極めて厳しい状況にあります。平成 20 年度入学生から工業 3 科の「くくり一括募集」を始めました。これは、入り口の段階で、まだ将来の進路について充分方向が定まらないまま入学してくる生徒に対し、1 年次では共通履修し 2 年次から科を決めることが望ましいと考えたからです。

最近では工業科の生徒でも進学を希望する者が増え、およそ 3 分の 1 の生徒が大学へと進学しています。そんな中、平成 22 年度入学生からはさらに改革を押し進め、工業 3 科を統合し、工学科 1 科 4 コースとすることにしました。

工学科は 1 年次ではくくり一括募集と同様に共通履修を行い、2 年次から、機械コース、電子情報コース、建築デザインコース、そして理工系大学進学を目指した総合工学コースに分かれます。これにより、さらに多様なニーズに応えることの出来る工業科への転換をはかることになりました。

3. 工業各科に特化したクラブ活動

工業教育にとって実験・実習は、教室などで習得

した知識を、自ら直接体験することにより、確実に自分の身につけ、実際の場面に応用できる技術を習得するためのものです。

本校では文化部 13 部、運動部 24 部の中から特に工業 3 科に特化したクラブとして、自動車研究部、電気研究部、建築デザイン部を選び、物心共に全面協力することにより、工業 3 科の生徒がより実践的な技術を身につけることができる環境作りに力を入れています。

自動車研究部は主に機械科の生徒を中心に活動し、リッターカーやソーラーカーを作り各種大会にエントリーしています。製作にあたっては、機械科にある最新の施設・設備を使い作業を行います。また、様々な作業の中では、ものづくりの喜びや満足感を体験し、クラフトマンシップを学んでいます。卒業生の中には技能オリンピックの国内大会で好成績を収めた部員もおり、卒業生の多くは生産現場で活躍しています。

電気研究部は主に電子情報科の生徒が中心に活動しています。最新のパソコンを使用し、様々なゲームを作り HSP コンテストに出品しています。一昨年から、卒業後も役立つパソコン検定の合格を目指し練習に励んでいます。昨年は 3 年の部員が難関のパソコン検定 2 級に合格しました。また、2 足歩行ロボットやソーラーカーの製作にも取り組んでいます。

建築デザイン部は主に建築科の生徒を中心に、各自がそれぞれ高い目標を持ち活動しています。主な活動は、製図コンクール出展に向けた図面作り、ものづくり大会出場のための作品作り、校内外に必要な家具（ベンチや棚）等の製作です。

自動車研究部はリッターカー・ソーラーカーの大会で常に上位入賞を果たし、建築デザイン部は製図コンクール・物づくり大会で入賞するなど、それぞれのクラブの生徒が皆、生き生きと活動しています。

東京工科専門学校
(東京工科自動車大学校)

エンジンメンテナンス科 2年

平山 貴洋

この東京工科専門学校で学ぶきっかけとなったのは、卒業生の方に本校を教えていただいたのがきっかけでした。私は千葉在住で、もちろん千葉県内にも多くの自動車系の学校はあったのですが、日本で唯一のエンジンを専門的に勉強しているエンジンメンテナンス科に魅力を感じ入学することを決めました。

エンジンメンテナンス科は、国家2級整備士の資格を取得することを目標としながら、+αの内容として、自動車系のガソリン・ディーゼルエンジン、船外機用のマリンエンジン、直列やV型、さらにはロータリーエンジンなど様々なエンジンを学ぶことができます。

もちろんエンジンだけでは車はダメなわけですから、そのエンジンに見合った足回りはどうしたらいいのかなどを講義と実習の2分野に分けて事細かに教えていただくことができます。講師の先生方の専門的知識も非常に高く、常日頃からたくさんのことが吸収できるように頑張っています。

現在、スーパーGTというカテゴリのレースに研修で行かせていただいているのですが、普段学校では体験できないようなこともたくさん経験させていただいています。

後輩の皆さん、皆さんにはたくさんの夢があることと思います。ぜひその夢を追いつけることを忘れないでください。夢に向かって努力し続ければ絶対に叶うと思います。頑張ってください。



株式会社昭和理化

資本金：1,000万円 代表取締役：中村行広
東京都豊島区南池袋2-41-12
TEL 03-3987-0731

<創業>

昭和37年11月、昭和理化を設立。昭和40年12月、株式会社昭和理化と組織変更をして再出発、本社を東京都豊島区東池袋に置く。昭和50年10月、現住所に移転。現在に至る。

<従業員数、営業拠点>

7名、本社

<事業内容>

消防用設備：自動火災報知設備・避難器具・各種消火装置・各種警報設備・消防用品・消火器・保安器具・各種標識・排煙設備・その他防災器具

弱電設備：インターホン設備・テレビ共聴設備・放送設備・AV設備・ITV設備・ナースコール設備・上記設備の設計・施工・保守

<経営理念>

我が国の産業発展に伴い最近の建物は高層化され、火災も超大型になり且つ又関東大震災説も叫ばれている折柄、高度の設備が要求されるようになりました。当社も創業以来消火器の販売に始まり、新しい防災に対する設備の研究、技術の修得に努めて

まいりました。今後も安心して生活できる社会育成のため総合防災を目標に若いエネルギーを燃やす所在です。

<青年へのメッセージ>

仕事は楽しいものです。自分に合う仕事を探し、決めたら辛い事も楽しくなる様創意工夫をし、一つの仕事を最後まで貫けば必ず満足を得る人生を送ることができます。苦勞を肥やしに夢と希望を持って生きていきましょう。涙の後には笑いがあります。





「わくわく ときどき 夏休み工作スタジオ」実施報告

教育庁指導部高等学校教育指導課

指導主事 守屋 文俊

今年で3年目になる「わくわくときどき夏休み工作スタジオ」は「10年後の東京」計画の一環として、小中学生にもものづくりを通して得られる楽しさを体験してもらい、将来のものづくり産業を支える人材を早期から育成することをねらいとして実施しています。



今年度は、都立工業高校13校で39講座を開設し、4,145名の応募があり、1,415名が参加しました。児童、生徒からは、「とても難しくて失敗したらどうしようと思った。でも楽しかった。作れてよかった。」「工作が、楽しいと思ったのは初めて。何度でも来たい。」という感想を頂きました。また、保護者からは、「子供が工業系の高校に興味を示した。」「家庭内の道具、作業場所の確保が難しいので、環境が整っている場所のできる機会があれば、なるべく子供に体験させたい。」などの感想をいただきました。

平成21年度「わくわくときどき夏休み工作スタジオ」講座一覧

No.	テーマ	会場校	No.	テーマ	会場校
1	木工キットで作るログハウス	葛西工業高等学校	19	音センサロボットの製作	北豊島工業高等学校
2	ライトレースカー製作教室		20	昆虫キットの製作	
3	レスキューロボット製作		21	LEDを使った光のアート作品作り	
4	ソーラーカー製作と化学実験教室	科学技術高等学校	22	指輪の製作	
5	防災ラジオ製作と化学実験教室		23	スモウロボットの製作	
6	ライトレースカー製作教室	墨田工業高等学校	24	キャタピラ(クローラー)キットの製作	
7	クリスタル・ガラスにデザインしよう!	足立工業高等学校	25	電子工作講座「手づくりステレオアンプスピーカーの製作」	
8	ライトレースカー製作教室		26	金属の加工をしてみよう (レーザー光線で金属を加工・溶けた金属を固めて形を作ろう)	小金井工業高等学校
9	2足歩行ロボットの工作教室	足立工業高等学校 (蔵前工業高等学校が担当)	28	電子工作をやってみよう(タッチライトと電子サイコロの製作)	
10	電子工作教室「懐かしいTVゲームを作ろう!」	荒川工業高等学校	29	マークしたプログラムで動くロボットの製作	
11	木製ベンチの制作	工芸高等学校	30	箱のなかにジオラマを作ろう!～鉄道・道路のある風景～	田無工業高等学校
12	マイ デニム バック を作ろう		31	金属を溶かし、ペーガムをつけて回してみよう 銅板をたたいて曲げ、小皿をつくらう	
13	レーザー光線や立体プリンタでオリジナル作品をつくらう (ジグソーパズル、木製ストラップの製作)		32	スターリングエンジンを作ってみよう	
14	銀のマイスプーン		33	世界に1つの自分の木工時計を作ってみよう	
15	革でつくるキミだけの小銭入れ&キーホルダー		34	オリジナルTシャツを作ろう	多摩工業高等学校
16	砂の力で文字を彫刻しマイグラスと、金属を溶かしマイ表札を作ろう。	六郷工科高等学校	35	とてもかんたん・たのしいロボットづくり	総合工科高等学校
17	声で残す伝言板(ボイスレコーダ)の製作		36	飛行機模型の製作	
18	シルバークセサリーを作ろう		37	たのしいオリジナルのウクレレをデザインしよう	
			38	オリジナルキーホルダーの製作とコップの製作	
			39	小さな家具づくり	

「明日を担うものづくり」 ～都立工業高校生徒の作品を都庁に展示しました～

8月3日（月）から8月31日（月）までの夏休み期間に合わせて、都立工業高等学校の生徒たちが授業で学んだ技術を生かして製作した実習作品を、都庁第一本庁舎1階エントランスロビーに展示しました。訪れる国内外の多くの方々に見ていただき、工業高校とは、こういうものを作っているのかという驚きや、技術的に優れている、完成度が高い、などという感想をいただきました。

また、新たな取組の一環として、都立中央図書館とコラボレーションを企画し、7月に中央図書館でものづくり教室を開いたり、10月には新宿駅西口イベントコーナーでの作品展示や学校紹介を行ったりと、工業高校を広く知っていただく活動を展開しました。

今後も様々な機会を通じて、PR活動をより積極的に行っていきたいと考えておりますので、会員の皆様に

おかれましても各種イベント等にお声をかけていただければ幸いです。



平成21年度 見学研修会報告（株式会社日本化薬東京）

今年度も夏季休業日中に見学・研修会が、株式会社日本化薬東京の協力を得て、8月21日（金）の午後、35名の参加を得て開催されました。

開会にあたり、主催者として西澤宏繁都産振会長の挨拶の後、(株)日本化薬東京代表取締役 近藤 始 様からご挨拶をいただきその後、会社概要説明、工場見学、講義へと進みました。

工場見学にあたり参加者は用意されたヘルメットと上着を着用し説明を受けました。塗料やインクの製造工程設備の外観を見学。着色した排水はバクテリアを活用し基準値を下回るように設備で処理し万全を期すなど環境への配慮がなされていました。

講義内容は「色素合成について」と「インク・染料について」二部に分けて専門的な内容と、色素の合成実験や、光による反応など大変興味深い内容のものを目の前で再現されそのつど驚きの声もきかれました。

質問コーナーでは次々と質問が寄せられ時間がもっと欲しいくらいで、熱気あふれる見学・研修会でした。

最後になりますが、お忙しい中この見学研修会に時間を割いていただいた(株)日本化薬東京の関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

次年度もご期待ください。



東京都産業教育振興会 ホームページアドレス

<http://www.tosanshin.org/>

事務局より

- 平成21年度「会報」第137号をお届けいたします。会報の編集、発行に際してご協力いただきました皆様に厚くお礼を申し上げます。
- 今年度から、会誌の発行は、年2回となりましたので、今回が今年度最終号です。本会の事業につきまして、ご意見・ご要望などございましたら事務局までお寄せください。

発行 東京都産業教育振興会
〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1
東京都教育庁都立学校教育部
高等学校教育課内
電話 03-5320-6729
FAX 03-5388-1727
印刷 株式会社小薬印刷所

再生紙を使用しています